

## ドブ川から市民に親しまれる川へ

鳥取 袋川をはぐくむ会

### 鳥取城の外堀だった袋川

「うさぎ追いかの山 小ぶな釣りしかの川」。有名な唱歌「ふるさと」の一節です。鳥取市出身の作曲家岡野貞一（1878—1941）が、この曲を作曲する際に思い浮かべたのが、故郷の袋川と言われています。現在は都市河川化していますが、もともとは自然豊かな川でした。袋川は鳥取、兵庫県境の扇ノ山を源に延長24キロの1級河川で、鳥取県の県庁所在地、鳥取市の中心市街地を流れ、鳥取県東部の最大河川、千代川に海の真直で合流しています。室町時代までの鳥取市は、低湿地に覆われており、袋川は城山・久松山の山麓近くを蛇行して流れていました。16世紀半ばに鳥取城が本格的に築かれると、袋川は城の重要な防御ラインとなりました。川の形が袋状に流れることから「袋川」と名付けられたようです。

江戸時代になり、姫路より池田光政が鳥取城に入ると、袋川には9つの惣門（そうもん）が設けられ、鳥取城の総構えとされました。池田光政は鳥取城および鳥取城下の大改造を行い、袋川より内側を鳥取城下としました。内側の土手は外側より約1メートル利高く、洪水時には水は外側に流れ出る仕組みとなっていました。袋川の土手には竹が植えられ、有事の際には城下に迫る外敵の視線を遮り、敵の攻撃を防ぐ役割を持っていたのです。内側には侍屋敷が建てられました。鉄を扱う職人でも刀鍛冶は川内の鍛冶町に、鋳物を扱う鋳物師は川外の鋳物師町に住まわされました。藩政時代は鳥取城の外堀として使われたのです。

### 桜が植えられ「桜土手」が誕生

明治になって川土手の竹藪は苅り払われ、日露戦争の勝利や大正天皇の御大典を記念して桜が植えられました。これにより袋川の堤防を「桜土手」と称するようになり、市民の憩いの場となったのです。また明治以降は鳥取市内にも紡績工場が建てられ、燃料となる石炭や材木を運ぶ運搬船が川を行き来するようになり、行楽

のための屋形船や市民の足としてのポンポン蒸気船なども見られたりするようになりました。また明治期までは市民の生活用水を賄う美しく清らかな川でもあったのです。子供たちが水遊びや釣りを楽しむ暮らしに密着した川でした。

### 洪水の常襲地

鳥取のことわざで『弁当忘れても笠忘れるな』と言われるほど、鳥取は雨の多い土地柄です。鳥取市は、江戸時代からたびたび、袋川の増水による洪水に見舞われました。文明開化後の明治・大正になってからも、甚大な被害をもたらされました。こうした洪水による被害にかんがみ、1919年（大正8）1月に鳥取治水会が結成され、これが1921年（大正10）には『千代川改修期成同盟』に発展します。そして1934年（昭和9）に袋川の鳥取市大杵地点より千代橋付近までに新しい川が掘削されて通水しました。これが新袋川です。この分水によって、鳥取市が大きな洪水に遭うことはほとんどなくなり市民は大喜びしました。従来の袋川は内務省令により旧袋川と称されるようになりました。



## 水量減少などで水質が悪化

河川敷は次第にゴミ捨て場が変わっていきました。川は悪臭を放ち生き物もいなくなりました。都市河川特有のドブ川となつてしまい、水底には得体の知れないゴミやヘドロが溜まり悪臭を放つようになりました。河川敷には古自転車、ペットボトル、空き缶などさまざまな廃棄物が堆積、雑草が生い茂っていました。兩岸を行きかう通行人は川から目をそらすように歩いていました。魚など生き物もほとんどいません。行政もやっと事態を認識し昭和50年代からヘドロの浚渫や護岸工事を開始、さらに公共下水道設置と進んでいったのです。しかしいったん都市河川化した袋川は一向にきれいにはなりませんでした。

## 市民が立ち上がる

A black and white photograph showing a group of people walking down a steep, grassy embankment. A large, dark, horizontal structure, possibly a bridge or overpass, is visible at the top of the frame. In the background, there are several multi-story buildings and a road.

## 魚、昆虫、亀、鳥が帰ってくる

(市) 三郷町(市) 三郷町

かつては清流、屋形船や洗い物も…

# "古里の川、袋川 再生に向け提言

——県に「はぐくむ会」

## へドロ除去など6項目

堺市市街地を流れる袋川の再生に取り組む「はぐくむ会」が、市に「はぐくむ会」の提言を提出した。提言は、河川の水質改善、河川の環境整備、河川の防災対策、河川の観光振興、河川の教育・文化振興、河川のまちづくりの6項目を盛り込んでいる。

提言は、河川の環境整備、河川の防災対策、河川の観光振興、河川の教育・文化振興、河川のまちづくりの6項目を盛り込んでいる。提言は、河川の環境整備、河川の防災対策、河川の観光振興、河川の教育・文化振興、河川のまちづくりの6項目を盛り込んでいる。

袋川は、かつては清流、屋形船や洗い物も盛んで、市民生活に欠かせない存在だった。しかし、近年は、河川の水質が悪化し、河川の環境が劣化している。提言は、河川の水質改善、河川の環境整備、河川の防災対策、河川の観光振興、河川の教育・文化振興、河川のまちづくりの6項目を盛り込んでいる。

提言は、河川の環境整備、河川の防災対策、河川の観光振興、河川の教育・文化振興、河川のまちづくりの6項目を盛り込んでいる。提言は、河川の環境整備、河川の防災対策、河川の観光振興、河川の教育・文化振興、河川のまちづくりの6項目を盛り込んでいる。

「はぐくむ会」は、平成17年11月に設立された。提言は、河川の水質改善、河川の環境整備、河川の防災対策、河川の観光振興、河川の教育・文化振興、河川のまちづくりの6項目を盛り込んでいる。

提言は、河川の環境整備、河川の防災対策、河川の観光振興、河川の教育・文化振興、河川のまちづくりの6項目を盛り込んでいる。提言は、河川の環境整備、河川の防災対策、河川の観光振興、河川の教育・文化振興、河川のまちづくりの6項目を盛り込んでいる。

## 水質、大幅に改善

また運動の高まりの中で上流部の工場排水規制、公共下水道化が進捗。袋川・浜坂橋でのBOD（生物化学的酸素要求量）は平成15年には4.0mg/Lだったのが平成24年には1.5mg/Lに下がりほぼ清浄な流れになりました。水の透明度が高まり誰が見ても水質が向上しているが分かります。水鳥が飛来し、川にコイが泳いでいるのを見て河川敷にゴミを捨てる人がほとんどいなくなりました。袋川の右岸の土手にはソメイヨシノが約230本植えられ、春は花見でにぎわいますが、ゴミはほとんど持ち帰られており、市民の環境への意識が向上しているようです。昨年はコスモスを河川敷に植えました。花を採る人はほとんどなく市民のマナーは着実に高まっているといえるでしょう。美しいところにゴミを捨てる人はいません。美しさを保つことが美しさを継続させることになるのだと感じています。沿川の企業も協力を始めました。袋川の土手にある看板には「トイレは〇〇ホテルのトイレを使って下さい」と書いてあります。川に公衆トイレがあつては土手が見苦しくなる、と近くのホテルが協力しているのです。川を大切にしようとの機運が市民の間から出始めたのです。そして堤防に花を植えるなど美化活動にも参加する人々が現れ始めました。



## ボート、カヌー遊びも

この向上した環境下で清掃、水質保全、美化だけにとどまらず、袋川を市民や観光客にも親しんでもらおうと子供たちによるボート、カヌー遊び、端午の節句には70匹ものコイ掲揚、桜土手を歩こう会実施、上流探索、水源地視察、桜土手写真コンテストと同展示会なども実施するようになりました。市民が袋川に親しむようになるとゴミなどの不法投棄はみるみる減り、好循環が続いています。これについて鳥取市都市整備部の大島英司部長は「他の地域で類例を見ない素晴らしい活動で、市内の川を市民の方がこれまで愛していただいていることを誇りに思います」と話しています。

## 元の「袋川」に

ところで昭和9年、洪水対策で鳥取市大杣より千代川まで「新袋川」を開削、市街地を流れる部分は「旧袋川」と名称が変更になりましたことを先に記しました。しかし市民の間では「旧袋川」は定着せず、「袋川」と呼び習わされていました。はぐくむ会では「旧がつくのは心情的になじまない。もとの袋川に返して」と全市挙げての署名運動を展開、官報告示で名称変更を実現、藩政時代と同じ元の「袋川」となったのです。これには鳥取県、鳥取市そしてそれぞれの議会も協力、全国では釧路川に次ぐ2番目の河川名称変更となりました。



## 小学校に出前授業

はぐくむ会ではこの素晴らしい袋川を子孫に残そうと平成23年より袋川に隣接する鳥取市日進小学校、遷喬小学校、醇風小学校で出前授業を行い、袋川の自然観察会を開くなど次世代へのバトンタッチも模索しています。また同遷喬小学校の3年生児童は運動にこたえて「袋川の歌」を作詞作曲、軽やかなリズムで大人たちに川の保護を訴えています。



## 親しまれる川、憩いの川へ

「袋川をはぐくむ会」では水質の浄化、河川敷のゴミ対策は一通り完了した、として袋川を市民に親しまれる川、憩いの場となるよう運動の方向を変化させよとしています。また運動を担う人たちが高齢化してくるのに伴い、若い人たちへのバトンタッチを模索しています。粟嶋道和会長は「袋川は立派に再生しました。今後は青年が中心となる運動に発展させ、川そのものを市民が楽しめる場所としたい」と話しています。



鳥取 袋川をはぐくむ会